

「やまぼうし」

令和7年2月28日発行 16号

発行所 公益社団法人岡山県看護協会
岡山訪問看護ステーション看護協会
Myステーション看護協会北長瀬
岡山居宅介護支援センター看護協会
岡山デイナースィング看護協会
〒703-8251 岡山市中区竹田155-7
TEL (086) 901-1373
発行責任者 二宮 一枝

わが家で暮らし続けるために

安心をあなたに おだやかな時間をともに



【ご挨拶】

公益社団法人 岡山県看護協会
会長 二宮 一枝

インフルエンザ警報中ではありますが、好天に恵まれた新年を迎えることができました。改めまして、皆様方のご理解・ご支援への感謝とご健勝を祈念申し上げます。

2025年の「歌会始」のお題は「夢」でしたが、皆様の「夢」は何でしょうか？

睡眠中に夢を見ることがありますが、その理由には＜記憶の整理と統合＞＜感情の処理とストレス解消＞＜創造性とインスピレーション＞等々があるそうです。そして悪夢を軽減するには、睡眠環境の改善、就寝前のリラックス、ストレスの軽減等が有効とされますが、各人個別の状況に応じた具体的な方法は、担当訪問看護師にご相談ください。

2025年の乙巳は再生や変化、成長と結実を象徴し、これまでの努力が実を結び、困難な状況でも成長を続けるといつた意味があるといわれています。私たち訪問看護ステーション・療養通所介護・居宅介護支援センターは「わが家で暮らし続けるために 安心と穏やかな時間をともに」をモットーに、ご利用者様に寄り添い「夢(希望)」の実現に努めてまいります。

末筆になりましたが寒さ厳しき折、体調を崩されませんようにご自愛専一に、春の兆しを楽しみに日々をお過ごしください。

【連携していただいている医療機関】

「安心を支えるパートナー」

ふたば医院
院長 武藤 純



ふたば医院は2023年の6月に訪問診療のクリニックとして開院しました。開院時に、連携する訪問看護ステーションとして登録させていただき、以来多くの患者さんを一緒に担当してきました。一緒に仕事をしていて思うのは、経験豊富なスタッフが多く、どんな患者さんでも安心してお任せできるということです。患者さんの状態観察や処置について安心してお願いできるということはもちろんですが、ストレスを抱えたご家族への対応に関しても真摯な姿勢で対応していただけるので私たちも安心できますし、ご家族も心強く感じておられると思います。

看護協会の大きなポイントとして、訪問看護ステーション・居宅介護支援センター・デイナースングを統括して運営しているということがあると思います。各職種の方が連携してスムーズに仕事ができるということはとても大きなメリットです。

また中でも特筆したいのは、重症な患者さんを看て頂けるデイナースングがあることです。点滴、褥瘡処置、気道の吸引など、リスクのある負担の大きい処置が必要な患者さんでもデイサービスを受けられるというのは、患者さん・ご家族にとって、とても大きなことだと思います。しかも普段訪問してくれている訪問看護ステーションですから連携という点でも安心です。このデイナースングには、これまでもずいぶんお世話になってきました。

在宅の現場で「安心」というのはとても大切です。最も大切と言っても良いかもしれませんが。私たちは患者さんやご家族の日常ができるだけそれで満たされるように日々頑張っているわけですが、多方面から患者さん・ご家族を支える看護協会さんはその良きパートナーと思われ頼りにしています。これからもよろしく願いいたします。

【ご利用者・ご家族】

「寝たきりの母と共に暮らす生活をとおして」



井内 寛子

6年前に母が神経難病にかかり突然歩けなくなりました。症状の進行が早く、食事や呼吸ができず、あっという間に呼吸器がつけました。本人・家族ともに不安・焦りが大きく、もう一緒に過ごせないと思っていましたが、看護協会のケアマネージャーさんに出会い、病院の医師・看護師さんとの連携、自宅に向けて必要なサービス調整をし、本当に力になっていただきました。呼吸器が付いた状態で1時間近くかけて自宅に戻った時のことを忘れられません。

自宅での介護が始まり、退院当初は痰がすぐにつまり、看護師さんに1日に何度も連絡していました。時間に関係なく快く対応して下さる姿は私たちの不安な気持ちをととても軽くしてくれています。また、天井しか見ることができない母を介助し車椅子に乗せて、昔から見慣れた景色を見せて下さり、母も嬉しく思っていると思います。会話ができなくても、「同じ景色を見ている」と思うと、母と気持ちがつながっていると感じ、私自身温かい気持ちになります。一人の人として丁寧にケアをしていただいている姿にととても感謝しています。

介護を始めて6年経ち、年をとった父や母の状態に合わせて必要なケア、訪問日数の調整など柔軟に対応して下さっています。直接のケアは母ですが、家族の一人がこのような大きな病をかかえていても安心していつも通りの生活ができること、母と一緒にいられることは看護協会の皆様、在宅スタッフの皆様ののおかげです。

皆様の支えで住み慣れた自宅で生活することができている今を、1日でも長く大切に過ごしたいと思っています。



「大好きな自宅で過ごした最後の一カ月」

K・M



八十五才の誕生日を祝った五月後、夫は大好きな自宅から、天のふるさとに旅立って行きました。

春頃より体調を崩し、主治医の勧めで二週間の予定で検査入院をしました。どこも悪いところが見つからず退院となりました。わずか二週間の入院で足が立たなくなり、入院の朝まで自分の足で歩いて何でも自分でしていた夫が、はじめての介護認定でいきなり要介護5の判定です。

自宅であれば、夫の好物を作り、食べてもらえて、きっと元気になる。と希望を持って自宅で介護を決めました。介護保険制度で、ケアマネージャーに訪問診療、訪問看護、福祉用具貸与などプランを立ててもらい、私も仕事を休み、酷暑の中、毎日三食手作りで「必ず元気になる」と信じて介護しました。

退院後一週間経過する頃は毎日、多い時は一日に二回、深夜にもかかわらず、私の出したSOSに訪問看護師さんは、いやな顔もされず対応してくださいました。そればかりか家族の私にも「私たちが訪問している間は、少しでも横になって休んでくださいね」と気づかって下さいました。バイタルチェック、清拭、シャンプー、更衣、痰の吸引、褥瘡の手当、摘便、体位交換、など手際よく、流れるようにさっぱりとして下さり、毎回感謝で頭の下がる思いでした。

体調が少し落ち着いた頃、看護協会が運営するデイサービスを利用できる日があり、本人も楽しみにして出かけて行きました。よほど楽しかったのか「ええとこじゃった。次はいっしょに行こうや」と私を誘ってくれました。その日の夕食は驚くほどの食欲でした。その喜びも束の間、誤嚥性肺炎になり抗生物質投与のため、点滴を始めました。

元気な頃から、人生の最後は自然に枯れるように去っていきたくと話し合っていましたので治療のための点滴を受け入れましたが手足がボールのようにふくれてつらそうでした。でも肺炎はすっかり快方に向かいました。

体力は衰えていきましたが、気力はしっかりと「散歩に行きたい」「歩きたい」「座りたい」「シャンとしないと」と自分を奮いたたせていました。私の手を握って「あんたがいてくれて安心じゃあ」とか、私がいろいろなお世話をしたあと必ず「あんたが好きじゃあ」と連発してくれ、緊迫した状況であってもお互いユーモアをもってゆったりとした気持ちで過ごせたのはバックに訪問看護さんの力強い存在があればこそその在宅介護であったと思います。

別れの三日前、夫は私を必死のまなざしでそばに寄せ、別れのあいさつをしてくれました。「お別れの日が近いような気がする。お母さんと一緒になれて幸せだった。ありがとう。楽しかった。長生きしてほしい。また一緒になろう」「こちらこそ、楽しい時をたくさんありがとう」互いに感謝の言葉を伝えあい心ゆくまで、ゆっくりと語りあえたことが出来たのも、大好きな家で、情熱を注いで制作した作品に囲まれて最後を迎える事が出来たのも（夫は彫刻家でした）訪問診療、訪問看護さんの暖かい力強い存在があればこそです。

本当にありがとうございました。感謝あるのみです。

夫の遺影もやさしくほほえんでいます。



夫は6年前に難病であるパーキンソン病の診断を受けました。当時夫は病気の再発の不安と新たに現れた症状を抱えていました。同居の義父も入院中でしたので家族にとって心配な状態が続いておりましたが、治療に繋がりひと安心しました。

数年は薬物療法の効果がありましたが、年々運動症状は進みました。そして多彩に現れる症状は悪化することも多くなり気が抜けない時期が続きました。

昨年5月頃から著しい歩行障害が現れ、夜間は介護が必要となり生活が一変しました。薬の調整を併せて福祉サービスを受けることにしました。手続きを済ませ看護協会のケアマネージャーさんにSOSを出しました。

実は義父が95才で天寿を全うするまで長年に渡りケアマネージャーさんを中心とする多くのスタッフの方々に手厚い支援を頂きました。大きな信頼があり夫の相談に繋がりました。

まずは話をしっかり聞きながら夫の病状、困っていること、望んでいることを引き出しながら迅速な対応が始まりました。心強い専門職（福祉用具のスタッフ、理学療法士、看護師）の方々と出会いがありました。

適切な福祉用具の提供と手すり等の設置、そして自宅で体が動かせる訪問リハビリと夫の思いは実現し生活がずいぶん安定してきました。医療については夫婦の思いもあり、診断を受けた専門医に受診しました。

数カ月かかりましたがずいぶん回復しました。表情も豊かになり好きな散歩や読書も楽しめるようになりました。大きな喜びです。

これからも症状の変化はあると思いますが支えていただける場所、人の広がり助けになり頑張れると思います。これからよりお世話になります。よろしくお願いいたします。



時事川柳 (ご利用者 池田順行様 作)

・ 2人居る 手摺混雑 歳老いて

(ふたりおる てすりこんざつ としおいて)

・ お年玉 曾孫喜ぶ 新紙幣

(おとしだま ひまごよろこぶ しんしへい)





アンケートへのご協力ありがとうございました



この度はお忙しい中、岡山居宅介護支援センター看護協会のサービスに対するアンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。貴重なご意見を多く頂戴し、私たちの課題を再認識することができました。

【ご利用者様へのアンケート結果（回収率 87.4%）】

ご利用者様の年代は、年齢 50 歳代～100 歳以下で、80 歳代の方が 59%、次いで 70 歳代が 31%でした。また介護者の年齢は 60 歳代が 29%、70 歳代が 21%、80 歳代が 22%でした。世帯は独居及び夫婦世帯が 53%でした。

介護度は要支援 1.2 の方が 30%、要介護 1.2 の方が 37%、要介護 3.4.5 の方が 33%でした。

身なりや態度、契約時の説明やその後の約束の履行性や迅速性、ご意向の確認では 90%以上の「そう思う」の回答を頂きました。サービスの利用により良い変化があったどうかの設問は「そう思う」は 84%で、前回のアンケートの結果より多かったです。その都度ご本人やご家族の意向や要望を伺いながら、サービスの有効性を検討、調整していく必要があると認識いたしました。

自由記載では「丁寧に話を聞いてくれる」「病気以外のことも何でも気軽に話せる」「一緒に考え勉強してくれ共に歩んでいる感じがする」「ずっと担当者でいて欲しい」などの励みになるお言葉をいただきました。

【関連事業所へのアンケート結果（回収率 73.4%）】

どの設問に対しても 85%以上の「そう思う」の回答を頂きました。前回のアンケートでご指摘を受けました「ケアマネとの連絡がとりづらい」に関しましては各自が携帯を所持したことにより「連絡が付きやすくなった」とご意見を頂きました。令和 6 年 5 月より提供票の発送を郵便からメールへ替えたことで「早く確認ができ助かっている」という感想と共に、連携ツール利用の要望も頂きました。始められるところから IC 化を進めていきたいと思っています。

自由記載では、「急な相談や退院支援に対応してくれる」「先々を見通した情報提供をしてくれる」「事業所からの相談にも真摯に耳を傾けてくれる」といったご意見の一方「融通が利かないイメージがある」というご意見もあり、連携しやすい雰囲気、柔軟な対応を心がけていきたいと思っています。

頂いたご意見を参考に皆様のご期待に添えますよう、今後も職員一同精進してまいります。

防災訓練

10 月には火災訓練をおこないました。実際の災害を想定し、安全に避難できるように職員一人一人真剣に行いました。

BCP（災害など緊急事態における事業継続計画）の見直しも行っています。今後も様々な災害場面に対応できるよう防災に取り組んでいきます。



日々、研鑽しています！

【事業所内研修】

◎ テーマ「認知機能低下のある人の意思決定支援について」

倉敷訪問看護サービスセンター 認知症看護認定看護師 松島稔 先生をお招きして講義を受けました。

事例紹介、その後当ステーションで実際にあった事案を元に振り返りを行うと共にグループディスカッションを行いました。

(講習後の職員感想)

- ・実際に自分たちが直面している事例に対して、専門的な立場からの助言やより実践的な話が聞けました。
- ・ご利用者、ご家族、医療従事者それぞれの思いを少しずつすり合わせながらお互いに良かったと思えるように意思の押し付け合いにならないようにしていきたいと思った。



◎ 移動の介助についての伝達講習

利用者、介助者共に足腰への負担がなく、移動ができる方法を確認しました。

介助される側も身体を任せるだけで、楽に安全に負担なく移動できることを学びました。

軽く移動できました！

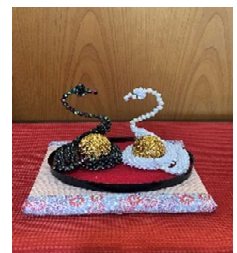


力を抜いて身を任せると怖くなかった！

～編集後記～

1970年の大阪万博、2005年の愛・地球博に続いて、20年ぶりに日本で大阪・関西万博が開催されます。世界各地から大勢の人やモノ・知恵や技術などが集まる一大イベントで日本が熱く盛り上がりそうですね。

岡山県からも世界で活躍するスポーツ選手や、次世代を担う高校生の活躍が目まぐるしく、ファジアーノもJ1昇格など今、「岡アツ！」です。私共の事務所もこの波に乗り、日々成長できる一年になるように頑張りたいと思います。



(ご利用者のご家族作)